



New York

# ニューヨーク稲門会

1970年に設立。現在では会員数約300名となり、世界最大規模の海外稲門会を自負している。年初の年次総会や初夏の新入会員歓迎会をはじめとして、よきライバルNY三田会(慶應大学同窓会)との交流会や春秋の早慶ゴルフ対抗戦(6連勝中)、文化講演会や、釣り、利き酒会、野球観戦会などの各種レクリエーションを年間を通して随時開催し、世代を越え、業種を越えた会員同士の交流を図っている。帰国会員によるNY稲門会東京支部も発足(1993年)している。



早慶ゴルフ大会

ハーバードクラブでの年次総会



©FUJIO INAMURA

## ニューヨークの魅力

フランク・シナトラが歌う有名な歌、「ニューヨーク・ニューヨーク」の中に下記のような歌詞が出てくる。

*If you can make it there,  
you can make it anywhere.  
It's up to you  
- New York, New York.*

ニューヨークでやっていけたなら、どこでもやっていける。すべてはあなた次第の街、ニューヨーク。

人々は、アメリカの象徴としてまずニューヨークを思い浮かべるかもしれない。しかしニューヨークという街は、他のアメリカの都市とは全く異なる、独特の文化を持つ街であり、一般のアメリカ人でも特別な場所と考えるほど、最もアメリカ「らしからぬ」街なのだ。

世界中から、さまざまな分野での精鋭たちが集まる街、ニューヨーク。大きな夢を抱え、または自由を求めて移民が集まる街、ニューヨーク。自分自身に挑戦するために身ひとつでやってくる人々が集まる街、ニューヨーク。

そんなニューヨークは、さまざまな人々の人生のステージにおける、成長の「通過地点」でもある。故にこの街は常に眠らず、常に何かが起こり、常に進化している。マンハッタン島の中だけでも、10数ブロック歩けば、違う「顔」に触れることができるのだ。

多種多様なヒト・モノ・コトが集まるからこそ、常に新しい、力強く渦巻くようなエネルギーが満ちている。そのエキサイティングな魅力こそが、ニューヨークを無二の存在としているのだろう。

## ニューヨーク稲門会の人びと

### 会員からの熱いメッセージ

★NY稲門会は年次に全く無頓着、新入会員が翌日には幹事となり、公式行事以外に小規模のワセダ呑みも盛んだ。都の西北でよい意味の「いい加減さ」を身につけた校友は、自由と個性を尊ぶ街で心地よい紐帯を形成している。 星野剛(1985年文学)

★NY稲門会に入会して、まるで早稲田サークルの1つに新たに入ったような感覚でした。年代、業界を超えて、大人になっても自由闊達な心意気を持った、素敵な人生の先輩・後輩に出会えました。大学にいた頃以上に、日本にいた頃以上に、「早稲田に入って良かった」と実感できる機会が多いような気がします。

北川まいこ(1999年文学)

★会員の方々の活動が多様なNY稲門会は、20代半ばの私にとって貴重な人脈作りと日本では得難い情報の交換ができる絶好の場です。 三原卓也(2007年人科)

★NY稲門会としては、激動期の日々の生活をしばし忘れ、早稲田のDNAを再認識できる、ざっくばらんな活動を追求している。大学には、日本の存在感を高めて行けるような、グローバルな場で活躍できるような、しかも早稲田らしい人材を数多く育てていただきたい。

頼廣圭介(1985年商学)

### 会長メッセージ

1976年、独立200年に沸くデューパー大学に交換留学生として送ってもらい、乗り継ぎまでの5~6時間を過ごそうと摩天楼の街を観光したのがニューヨークとの接点の始まりでした。

滞在先で、大学生というものは勉強するものなんだと始めて知り、けっこうしんどかったけれども今風に言えばはまってしまったのでしょうか。大学院の時はシカゴ大学に行かせてもらい、お人よしの半面、競争相手は本気で蹴落とそうとするアメリカ人を目の当たりにしました。

私の経験は貧乏学生が財を成すアメリカンドリームとはほど遠い。けれども、普通の人間が、好きな法律をメシの種に、好きな街で20年もそれなりに暮らしてこれたのもこの2回の経験のお陰であり、稲門会の仲間がいたからです。

そのNY稲門会を預かって半年。どうやったらお役に立てるのやら。

上野千津子

弁護士。主に日米の企業間取引についてのアドバイス。1980年法学、83年法研修。1976年から大学からの交換留学で1年間インディアナ州に滞在。80年から大学および当時の文部省派遣の留学生として1年間シカゴ大学在学。90年8月からの1年間はハーバード大学ロースクール。91年9月から現在までニューヨーク在住。

## イェール大学

早稲田大学校友会125周年記念事業の1つとして、稲門会とイェール大学校友会との交流を拡大して行くことにな



Yale Day of Service

った。その一環として、NY稲門会もイェール大学校友会の地域ボランティア活動にNYに参加。

このボランティア活動は、「Yale Day of Service」と呼ばれ、5月の第3土曜日に世界各国のAssociation of Yale Alumni (AYA) リードの下、イェール大学

校友が地域の人道的活動に参加、手助けするために発足した。イェール大学校友会だけではなく、交流のある各国提携大学の校友や非営利団体の協力も得ながら、ボランティア活動を通して人脈を広げることを長期的な目的としている。

NY稲門会としても、この活動を通して、日頃生活をしている地域社会への恩返しとNY稲門会以外の新たな出会いの場、交流の場を作って行くことができるのではないかと考え、参加を検討している。

(文中敬称略)

